



市民の皆さんと市制施行60周年をお祝い

### 市民とともに還暦をお祝い 市制施行60周年記念式典

須賀川市は、昭和29年3月31日、岩瀬郡須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村と石川郡小塩江村の1町4カ村が合併し、市制がスタートしてから、平成26年3月30日をもって還暦(満60歳)を迎えました。

3月28日に「市制施行60周年記念式典」を行い、この晴れの日を祝うために、約800人が文化センターに足を運びました。多くの市民ボランティアが参加し、受付、会場案内、司会進行、手話や呈茶などに協力しました。

式典では、相楽新平元市長をはじめ、過去10年の市勢の発展に寄与された94の個人・団体に感謝状を贈呈しました。

また、松明太鼓小若組とシニアチームが演奏を披露し、式典を盛り上げたほか、平成6年に誕生して20歳となったポータンに、感謝とこれからの活躍を祈念して橋本市長から成人証書が



みんなで作るモザイクアート (10月12日開催)

授与されました。

この年は25の記念事業が行われ、中でも市制施行60周年記念事業実行委員会で企画した長沼と岩瀬の名所を巡るウォークラリーや、市民の皆さんの笑顔の写真を組み合わせ須賀川マップを作成するモザイクアートは、皆さんの思い出に残るイベントとなりました。

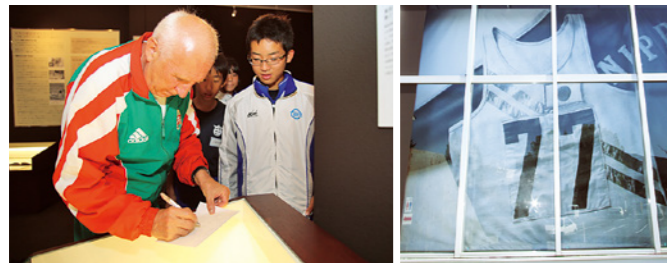
### 栄光のメダリストの軌跡 円谷幸吉メモリアルホールが リニューアルオープン

10月18日「円谷幸吉メモリアルホール」が、リニューアルオープンしました。

展示内容を東京2020オリンピックの開催に沿った内容とし、「円谷幸吉からアスリート円谷幸吉へ」「人間円谷幸吉」「アスリート円谷が残したものを未来へ」の3つのコーナー

を設け、その中で円谷幸吉選手が活躍した1964年の東京オリンピックを紹介しました。

円谷幸吉選手の関係者や、陸上競技関係者のほか、多くの市民が訪れ、東京2020オリンピックを身近に感じられる機会となりました。



1964年の東京オリンピック男子マラソン ハンガリー代表のシュトー・ヨーゼフさんも来館した円谷幸吉メモリアルホール



各種スポーツ大会の会場として多くの市民に利用されています

### 市民の健康を推進 市中央体育館が オープン

東日本大震災の復旧・復興事業として、旧並木町体育館跡地に建設を進めていた「須賀川市中央体育館」が完成し、7月11日にオープニングセレモニーを行いました。

「須賀川市中央体育館」の名称は、市民の皆さんに親しまれるよう公募し、応募総数95件の

中から採用しました。

施設の延べ床面積は、1884平方メートルで、その内アリーナ面積は1020平方メートルです。これはバレーボールのコートが2面取れる広さで、ほかにもバスケットボールやバドミントンなどの屋内スポーツを楽しむことができます。

環境に優しい太陽光発電設備と防災倉庫を設置し、防災施設としての機能も兼ね備えています。

### 平成26年の主な出来事

Sukagawa 2014



1

- 1月 原付バイク用のウルトラマンナンバーを交付
- 2月 芭蕉記念館が本町地内に移転(写真①)
- 3月 市制施行60周年記念式典  
市中心市街地活性化基本計画が国の認定を受ける



2

- 4月 防災行政無線を開局  
市内全域197カ所に設置  
出生届、転入届を提出した人に、ウルトラの父からのメッセージカードの贈呈を開始



3

- 7月 翠ヶ丘公園わんぱく広場がリニューアルオープン(写真②)  
市中央体育館がオープン(写真③)



4

- 8月 水道お客さまセンターを開設  
市教育委員会所管のバス「ぼたん号」「牡丹エンゼル号」にウルトラマンのラッピングを施し、運行を開始(写真④)

- 9月 市制施行60周年記念まちづくりシンポジウム「イメージアップ戦略によるまちづくり」

- 10月 市公式フェイスブックページ、ポータンフェイスブックページを開設  
第三中学校60周年記念式典  
円谷幸吉メモリアルホールがリニューアルオープン

# 住んでみたいと思えるまちへ 「市人口ビジョン」「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

10月30日「市人口ビジョン」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「市人口ビジョン」は市の人口の現状分析と将来展望を踏まえた、目指すべき目標人口を示したものです。人口ビジョンの対象期間は、国と合わせ2060年までとし、東日本大震災の影響を考慮しながら人口を推計しました。2040年で人口7万人、2060年で人口6万人の維持を目標としています。

また「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は「市人口ビジョン」に示した目標人口の維持を具体的に進めていくため策定しました。総合戦略は、2015年度から2019年度までの5カ年で、4つの基本となる柱ごとに基本目標と基本的方向、施策戦略で構成しています。

これらに基づき、人口減少の抑制に努めながら、地域経済の

活性化、持続的かつ安定的な地域社会の維持・発展に向けて、市民との協働によるまちづくりを着実に進め「将来とも子どもたちが住んで良かった、住んでみたいと思えるまちづくり」を目指しています。



## 青空の下、拍手に包まれて 山寺池公園が完成

平成22年度から整備を続けてきた「山寺池公園」が完成し、4月2日にグランドオープンセレモニーを行いました。

テープカットの後、西袋第一小学校の6年生による鼓笛パレードが行われ、山寺池公園の完成をお祝いしました。

東日本大震災の教訓を生かし、緊急用耐震性飲料水貯水槽

を四阿の地下に設置し、断水時の給水所として利用できるようにしました。そのほか、防災備蓄倉庫の設置や、災害時対応マンホールトイレ、かまどベンチ、1万2千800平方メートルの多目的広場などを整備し、災害時の一時避難場所としての機能も確保しました。



山寺池公園グランドオープンセレモニー

## 平成27年の主な出来事

Sukagawa 2015



3月 ウルトラヒーローのモニュメントを松明通りに設置 (写真①)

災害公営住宅「馬町団地」の入居開始

市合併10周年記念式典



4月 長沼東部コミュニティセンターがオープン

山寺池公園グランドオープンセレモニー

藤沼温泉「やまゆり荘」が営業を再開 (写真②)



5月 福島レッドホープスの公式戦が、いわせグリーン球場で開催 (写真③)

6月 いわせ悠久の里「花の杜」第1回植樹祭

秋篠宮皇嗣同妃両殿下が本市を御視察 (写真④)



7月 災害公営住宅「東町団地」の入居開始

8月 市議会議員一般選挙

須賀川一小児童クラブ館が開館

10月 長沼中学校統合50周年・新校舎落成記念式典

「市人口ビジョン」「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定



相楽新平元市長に感謝状を贈呈

## 3地域の一体感を再認識 市合併10周年記念式典

平成17年4月1日に須賀川市、長沼町、岩瀬村の3市町村が合併してから10周年の節目の年を迎え、3月26日に「市合併10周年記念式典」を行いました。式典には、約400人が出席し、この記念すべき日が迎えられることを喜び合いました。

橋本克也市長が、平成18年のふくしま駅伝での初優勝、東日

本大震災からの復興などに触れ「合併して良かった、これからも住み続けたい」と実感できるまちづくりを市民とともに進めると、式辞を述べました。

また、相楽新平元市長をはじめ、3市町村の合併と3地域の一体感の醸成に尽力された172人の皆さんに感謝状を贈呈したほか、松明太鼓の演奏や、子どもたちによる合唱が披露されました。





毎年訪れる人たちの目を楽しませてくれる須賀川牡丹園



### 悠久の時を経て咲き誇る 牡丹園発祥250年

須賀川牡丹園は発祥から250年を迎え、5月11日、牡丹園発祥250年記念式典を行いました。樹齢200年を超える貴重な在来古木の牡丹が今も美しく咲き、290種・7000株の牡丹が訪れる人たちを魅了しています。

牡丹園は、明和3（1766）年、須賀川の薬種商・伊藤祐倫が、薬用として撰津国山本村（現在の兵庫県宝塚市）から、牡丹の苗木を持ち帰り栽培したことが始まりです。

牡丹園は伊藤祐倫から綿糸商・柳沼新兵衛に譲られます。牡丹園を語る上で欠かせない人物が、園主二代目新兵衛の長男・柳沼源太郎です。源太郎は牡丹をこよなく愛し、牡丹栽培に励み、昭和7年、須賀川の牡丹園は、国の名勝に指定されました。



余情的な雰囲気を出す牡丹焚火

行った牡丹の古木の焚火は、次第に俳人だけでなく、歌人、文人も集うようになり「牡丹焚火」として今に受け継がれています。牡丹焚火は、昭和53年、講談社発行の「俳句歳時記」の冬の季語として収載されました。現在、この牡丹焚火は牡丹の古木や枯れ枝を焚いて供養する初冬の風物詩として、毎年11月の第3土曜日に牡丹園内の設立記念碑前で行われています。

### メダリストの偉業を次世代へ 円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム

3月19日、円谷選手の偉業をたたえるとともに、次世代へ伝え、東京2020オリンピック・パラリンピックへの機運を高めるため「円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム」を文化センターで開催しました。

原健二さん、バルセロナオリンピック銀メダリスト・アトラントオリンピック銅メダリストの有森裕子さんらと交えてのパネルディスカッションが行われました。



選手たちの思いが生ので届けられたシンポジウム



図書館ボランティアの皆さんに感謝状を贈呈した記念式典

### 蔵書数は開館時の348倍に 市図書館開館100周年記念式典

大正4年に須賀川町立図書館として誕生した市図書館は、開館100周年を迎えました。2月20日、市図書館開館100周年記念式典を行い、これまで図書館事業にご尽力いただいた読み聞かせボランティアの皆さんや、図書館ボランティアの皆さんに感謝状を贈呈しました。

また二人の円谷が見上げた須賀川の空と題して、小説家・増山実さんによる講演会が行われました。

### 平成28年の主な出来事

Sukagawa 2016



- 1月 マイナンバーカードの交付が始まる
- 2月 市図書館開館100周年記念式典
- 3月 円谷幸吉とオリンピックメモリアルシンポジウム



災害公営住宅「弘法坦団地」「山寺北団地」の入居開始。（「馬町団地」と「東町団地」を含めた全100戸の整備が完了）

- 4月 大東こども園が開園



- 5月 牡丹園発祥250年記念式典
- 7月 橋本克也氏が市長無投票当選（3期目）（写真②）



- 9月 吉田信一選手がリオデジャネイロパラリンピック車いす卓球競技に出場（写真③）
- 10月 秩父宮記念スポーツ博物館須賀川市巡回展

- 藤沼湖の湖底を歩く会（写真④）
- 11月 ウルトラヒーローのモニュメントを公立岩瀬病院前の通りに新たに3体設置
- 市民交流センターの愛称「tette」を発表



第二中学校合唱部の皆さんが美しい歌声を披露した新庁舎落成式

### 復興のシンボル完成 新庁舎落成式

3月30日、東日本大震災で被災した庁舎の再建を進めていた新庁舎の落成式を行いました。新庁舎1階「みんなのスクエア」で、関係者や来賓など約150人が出席し、橋本克也市長から施工業者4社に感謝状が贈られました。また、第二中学校合唱部の皆さんが美しい歌声を披露。歌声が新庁舎内に大きく響き渡り、本市の復興は、子どもたちの限らない未来とともにあることを感じさせるものとなりました。

4月8日・9日には、市民を対象にした内覧会を行い、約700人が参加しました。参加した皆さんは、ウルトラ窓口や各フロアの説明を受けながら見学。新庁舎へ、市民の皆さんからの期待が寄せられる日となりました。



市民を対象にした新庁舎の内覧会

各種窓口を集約し、新たにコンシェルジュステーション（総合案内）やパスポート窓口を配置。利用しやすい庁舎に生まれ変わりました。

新庁舎の完成は、復興から発展、そして、「選ばれるまちすかがわ」の実現に向けた、新たなチャレンジへのスタートとなりました。

### 全国とつないだ絆 奇跡のあじさい植樹祭

「奇跡のあじさい」とは、東日本大震災で決壊した藤沼湖の湖底を歩いた商工会関係者の皆さんが、自生するヤマアジサイを発見し命名したものです。奇跡のあじさいを復興のシンボルに位置付け、全国から里親を募集し、株分けされた奇跡のあじさいは、北は北海道、南は沖縄まで広がりました。

「奇跡のあじさい植樹祭」が行われ、全国の里親に育てられた奇跡のあじさいが故郷の本市に戻り、大切に植えられました。植樹祭には地元の人たちに加えて全国からも集まり、約1000人が参加しました。植樹のほか、長沼中学校の生徒たちが合唱を披露し、復興への思いを伝えました。



復興への思いを込めた「奇跡のあじさい植樹祭」



安心して子育てできる環境へ

### 笑顔あふれる未来へ 5歳児の保育料・授業料を無償化

4月から、市内在住の5歳児に対し、公立・私立を問わず全ての保育所・こども園の保育料、幼稚園の授業料を無償化しました。

全ての5歳児が等しく幼児教育・保育を受けることができる環境を整備することで、5歳児から中学校までの10年間を義務

教育と捉えた、幼小中の連携を推進しました。

5歳児の保育料・授業料の無償化は、平成21年度から開始した「こども医療費助成制度」（小学6年生までの子ども医療費を無料化）と併せて、子育て中の家庭への経済的な負担軽減や子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境整備となりました。

### 平成29年の主な出来事

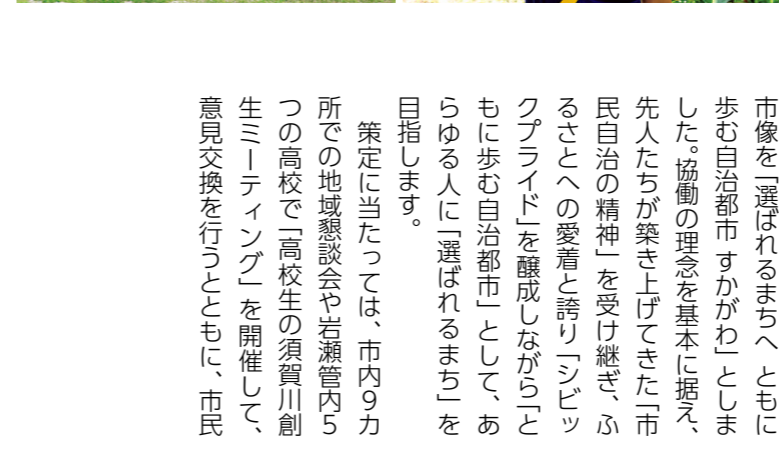
Sukagawa 2017



- 1月 藤沼ダムで試験放水開始
- 3月 市総合計画策定条例を制定  
新庁舎落成式
- 4月 5歳児の保育料・授業料を無償化  
第三西袋児童クラブ館が開館  
市立白鳩保育園が公私連携型保育所に移行  
[須賀川市史第8巻現代4]を発行  
藤沼ダム農業用水の供給再開  
国道118号松塚バイパスが開通(写真①)
- 5月 新庁舎が開庁  
市役所窓口でパスポート交付を開始  
市消防団が第11回東北水防技術競技大会で最優秀賞を受賞(写真②)
- 6月 市消防団初の女性消防団員に辞令交付  
都市計画道路須賀川駅並木町線本町工区竣工式  
奇跡のあじさい植樹祭
- 10月 東西循環バスの土曜日運行を開始(写真③)  
第一中学校創立70周年記念式典  
西袋中学校創立70周年記念式典
- 11月 イタリアのファーラ・フィリオールム・ペトリ市の副市長が来庁(写真④)  
第二小学校新校舎落成・創立110周年記念式典



希望に満ちた魅力あるまちづくりを目指しました



### あらゆる人に「選ばれるまち」へ 市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタート

人口減少や少子高齢社会の進行、大規模自然災害への危機管理意識の高揚、ICTの進展など、社会環境が変化する中、4月1日、まちづくりの指針となる市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタートしました。

第8次総合計画では、将来都市像を「選ばれるまちへ」とともに歩む自治都市すかがわ」としました。協働の理念を基本に据え、先人たちが築き上げてきた「市民自治の精神」を受け継ぎ、ふるさとへの愛着と誇り「シビックプライド」を醸成しながら「ともに歩む自治都市」として、あらゆる人に「選ばれるまち」を目指します。

策定に当たっては、市内9カ所での地域懇談会や岩瀬管内5つの高校で「高校生の須賀川創生ミーティング」を開催して、意見交換を行うとともに、市民

アンケートやパブリックコメントにより、市民の皆さんから幅広く意見をいただきました。

総合計画は、まちづくりの基本的な指針であり、市政経営の基本方針となることから、市の最上位計画として明確に位置付けるため、平成29年3月に「須賀川市総合計画策定条例」を制定しました。第8次総合計画は、この条例に基づく初めての計画となります。



### 46年の歴史に幕 中央公民館が閉館

中央公民館が、市民交流センターに機能を移転するため、12月28日をもって、閉館しました。

46年間、延べ約200万人以上にご利用されてきた中央公民館は、本市の市民活動の拠点として、大きな役割を果たしてきました。

閉館を前に、12月8日、中央公民館の閉館イベントを行い、利用団体のステージ発表や作品展示などで大いににぎわいました。また、中央公民館壁面への寄せ書きには、利用者の皆さんからの感謝のメッセージが数多く寄せられました。参加した皆さんは、中央公民館での思い出話に花を咲かせました。

こうした想いは市民交流センターへと引き継がれています。



市民活動の拠点となった中央公民館

### 伝統行事を通して俳句文化を普及 「松明あかし」が冬の季語として俳句歳時記に収録

430余年前の悲運を偲ぶ本市の伝統行事「松明あかし」。長さ10メートル、重さ3トンもの大松明を若衆が担いで街中を練り歩き、五老山に建てられた松明の炎が、松明太鼓のとどろきに揺れながら天を焦がします。

その松明あかしは、角川書店が発行した「俳句歳時記第五版・冬」に新たに収録され、冬の季語になりました。桔槔吟社をはじめ、俳句関係者の永年にわたる尽力により実現したものです。

俳句歳時記に収録されるのは、県内の行事などでは「野馬追」と本市の「牡丹焚火」に続き三つ目となりました。

翌年には、松明あかしの俳句歳時記収録を記念し、翠ヶ丘公園内に江持石製の高さ約2メートルの記念碑が建てられました。

松明あかしの俳句歳時記の収録は、市の俳句文化が更に発展する契機となりました。



冬の季語となった松明あかし

### 平成30年の主な出来事

Sukagawa 2018



1月 中学生による模擬議会を初開催(写真①)



3月 南部地区都市再生整備計画が地方再生モデル都市に選定

4月 市第8次総合計画「まちづくりビジョン2018」がスタート

子育て世代包括支援センター「てくてく」がスタート

大黒池防災公園オープンセレモニー(写真②)

小中一貫教育校稲田学園が開校

7月 大阪北部地震の被災地(豊中市)へ職員を派遣

在宅医療・介護連携拠点センターを開設

8月 市民交流センター落成式

須賀川二小児童クラブ館が開館

9月 ムシテックワールドの来館者が100万人を突破(写真③)

10月 山寺土地区画整理事業竣工式

全日本合唱コンクールで第二中学校が金賞を受賞(写真④)

11月 第二中学校創立70周年記念式典

「松明あかし」が冬の季語として俳句歳時記に収録



12月 中央公民館が閉館